

2019 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 精密機械・ロボット事業で増収減益となった要因を教えてください。</p>	<p>A1 : <油圧機器> 昨年度から続く増産のための設備投資や人員増加、外注先への人的応援や空輸による輸送費等の費用が高まりました。これらの増産対応費用は今 1Q まで影響しましたが、2Q 以降は需給ギャップが解消されることで減少する見込みです。 <ロボット> 最大の要因は半導体市場の低調が長期化していることにより、半導体製造装置向けロボットの販売が減少したことです。また、自動車向けロボットは組立・塗装の両分野で需要は堅調なものの、大型の塗装案件の売上が 2Q 以降に期ズレしたことも要因です。 その他、今後当社がリードしていく医療ロボットや技術伝承ロボット(Successor)などの新分野や人共存ロボットの研究開発投資が大きく、固定費が増加しています。</p>
<p>Q2 : 中国の建設機械市場は 2019 年度も好調の見通しでしょうか。市況に変化があれば教えてください。</p>	<p>A2 : 一部の中国建設機械メーカーが在庫調整を行っているという情報はあるものの、需要は引き続き高水準です。米中貿易摩擦による中国経済の減速感が見られる一方、中国政府の大型公共投資による景気刺激策も実行されており、今後の市場の動向について現在慎重に見極めを行っています。</p>
<p>Q3 : 車両事業で 10 億円の追加損失が発生したとのことですが、4 月末の決算説明会からの 3 カ月間でどのような状況の変化があったのでしょうか。</p>	<p>A3 : 米国ロングアイランド鉄道向け M9 車両契約において、現在先行納入する 14 両の引き渡しのための走行試験を実施しています。この走行試験は当初 2019 年 5 月末に完了する予定でしたが、一部部品の不具合等により、8 月末に完了する見込みです。この試験期間延長に伴う費用増により、当 1Q において約 10 億円の追加費用を計上しました。今後の更なる追加損失の可能性については、現在では想定していません。</p>
<p>Q4 : モータサイクル&エンジン事業の減収要因および通期計画への影響を教えてください。</p>	<p>A4 : 当社からディーラーへの卸売のタイミングが期ズレしたことや、円高ユーロ安が主な要因です。 なお、二輪車、四輪車ともに当社の小売販売は堅調であることから 2Q 以降の卸売は順調に推移すると見ており、通期計画に対して影響はないと考えています</p>

以上